

ニチレイロジグループ

2021年度事業報告会

2022年5月16日

- 1. 企業概要**
- 2. 2022年3月期 決算概要**
- 3. 前中期経営計画（2019-2021）**
- 4. 新中期経営計画（2022-2024）**
- 5. 参考資料**

1. 企業概要

[組織体制]

(株)ニチレイロジグループ本社 (持株会社)

子会社38社 関連会社10社

地域保管事業

(株)ニチレイ・ロジスティクス北海道

(株)ニチレイ・ロジスティクス東北

(株)ニチレイ・ロジスティクス関東

(株)キョクレイ

(株)ニチレイ・ロジスティクス東海

(株)ニチレイ・ロジスティクス関西

(株)ニチレイ・ロジスティクス中四国

(株)ニチレイ・ロジスティクス九州

エンジニアリング事業

(株)ニチレイ・ロジスティクス
エンジニアリング

物流ネットワーク事業

(3PL・運送・流通・加工)

(株)ロジスティクス・ネットワーク

(株)NKトランス

中国事業

日冷物流投資（上海）有限公司

上海鮮冷儲運有限公司

江蘇鮮華物流有限公司

南京鮮華物流有限公司

タイ事業（関連会社）

SCG Nichirei Logistics Co.,Ltd.

マレーシア事業（関連会社）

NL Cold Chain

Network(M)SDN BHD

Litt Tatt Enterprise Sdn.Bhd.

Litt Tatt Distribution Sdn.Bhd.

海外事業

欧州事業

Nichirei Holding Holland B.V.

HIWA Rotterdam Port Cold Stores B.V.

Eurofrigo B.V.

Thermotraffic Holland B.V.

Thermotraffic UK Ltd.

Kevin Hancock Ltd.

Thermotraffic GmbH

Frigo Logistics Sp.z o.o.

Armir Logistyka Sp. z o.o.

Armir Dystrybucja Sp. z o.o.

Transports Godfroy S.A.S

Entrepots Godfroy S.A.S

Norish (N.I.) Limited

Norish Limited

1. 企業概要

2. 2022年3月期 決算概要

3. 前中期経営計画（2019-2021）

4. 新中期経営計画（2022-2024）

5. 参考資料

2. 2022年3月期 決算概要

[ハイライト]

連結	好調な海外事業が全体業績を牽引、増収増益		
	売上高	: 2,245億円	前年比 6%増
	営業利益	: 146億円	前年比 12%増
物流 ネットワーク 事業	家庭用商材取扱い好調継続とコストコントロールが増益に寄与		
	売上高	: 1,029億円	前年比 -(前年並み)
	営業利益	: 55億円	前年比 8%増
地域保管 事業	本牧物流センター安定稼働に加え、業務効率化がすすみ収益向上		
	売上高	: 714億円	前年比 3%増
	営業利益	: 79億円	前年比 14%増
海外 事業	欧州・中国ともに大幅な業績伸長により売上高400億円を突破		
	売上高	: 459億円	前年比 26%増
	営業利益	: 21億円	前年比 47%増

2. 2022年3月期 決算概要

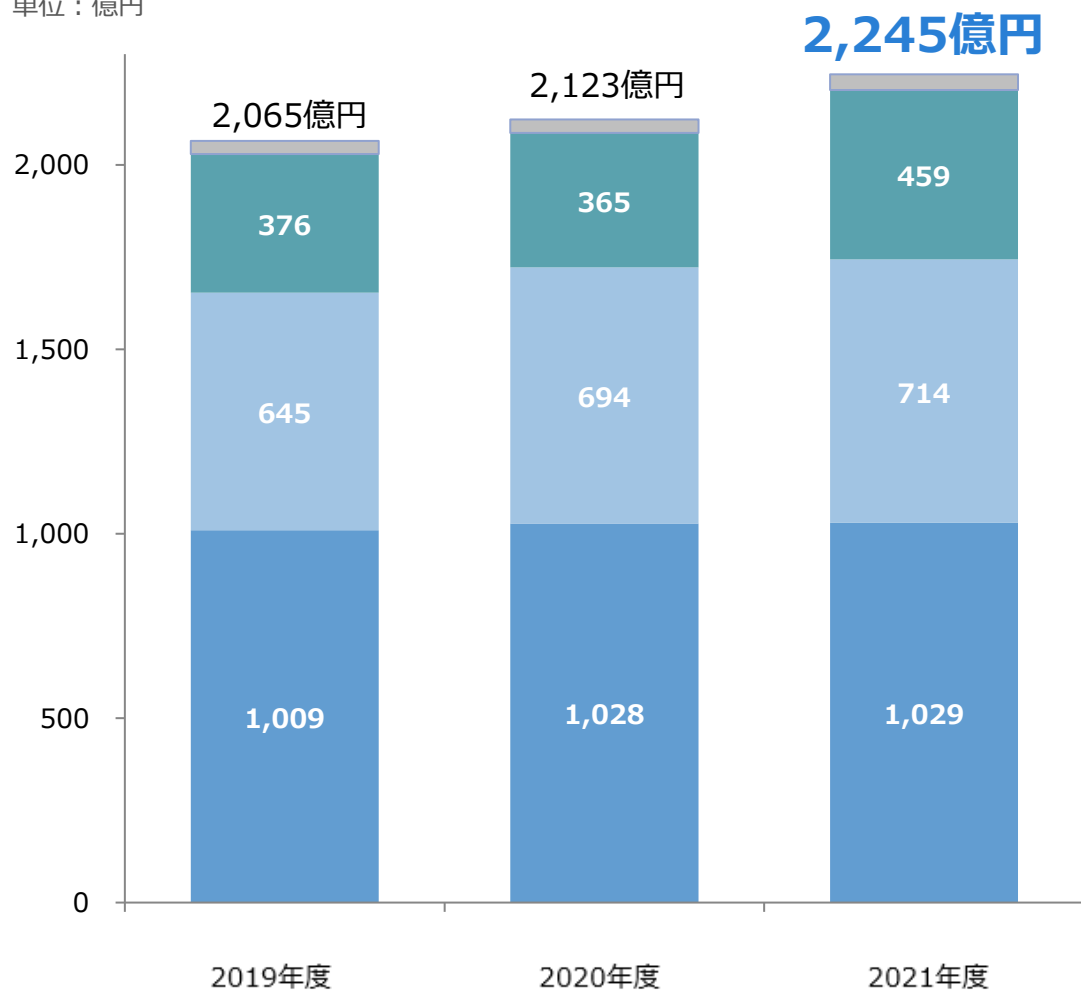
[連結業績]

売上高推移

- その他・共通
- 海外
- 地域保管
- 物流ネットワーク

前年比**6%増**

単位：億円

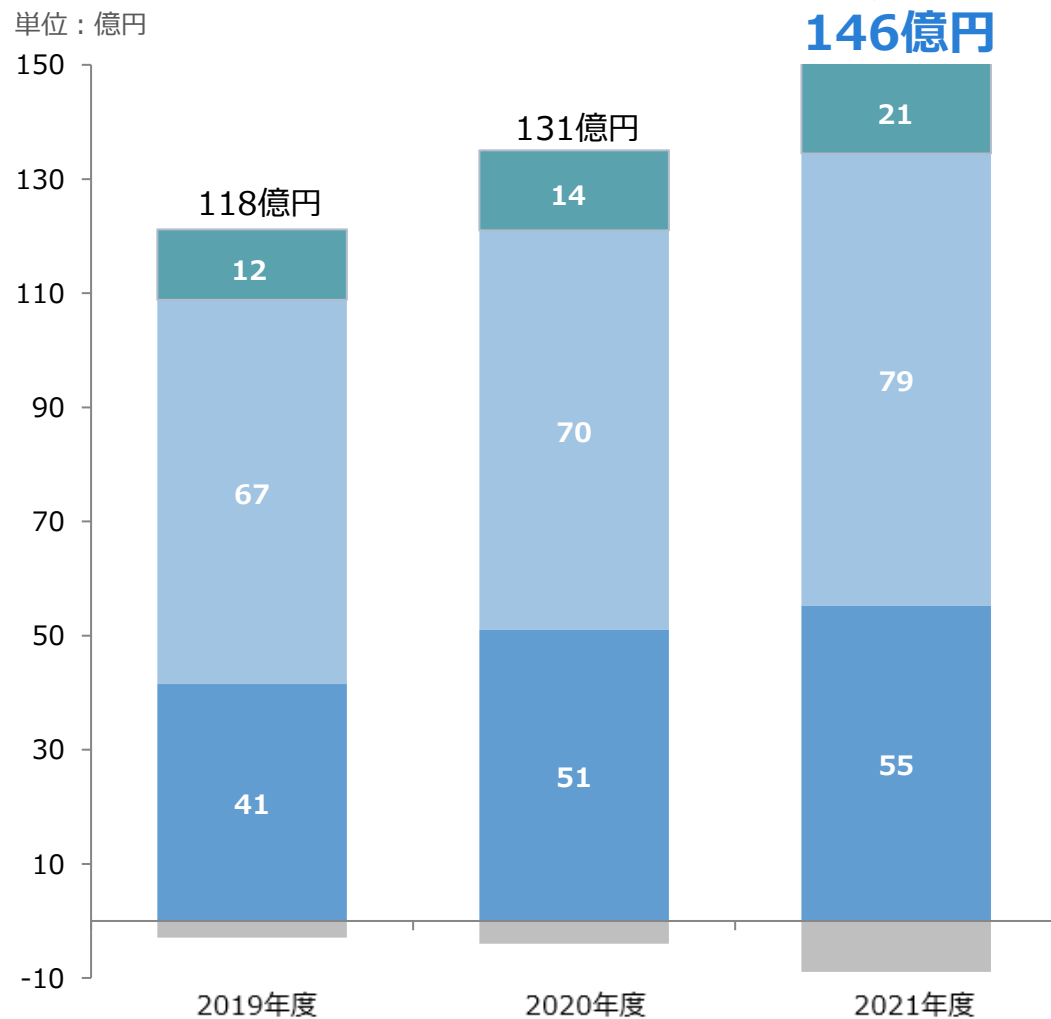


営業利益推移

- その他・共通
- 海外
- 地域保管
- 物流ネットワーク

前年比**12%増**

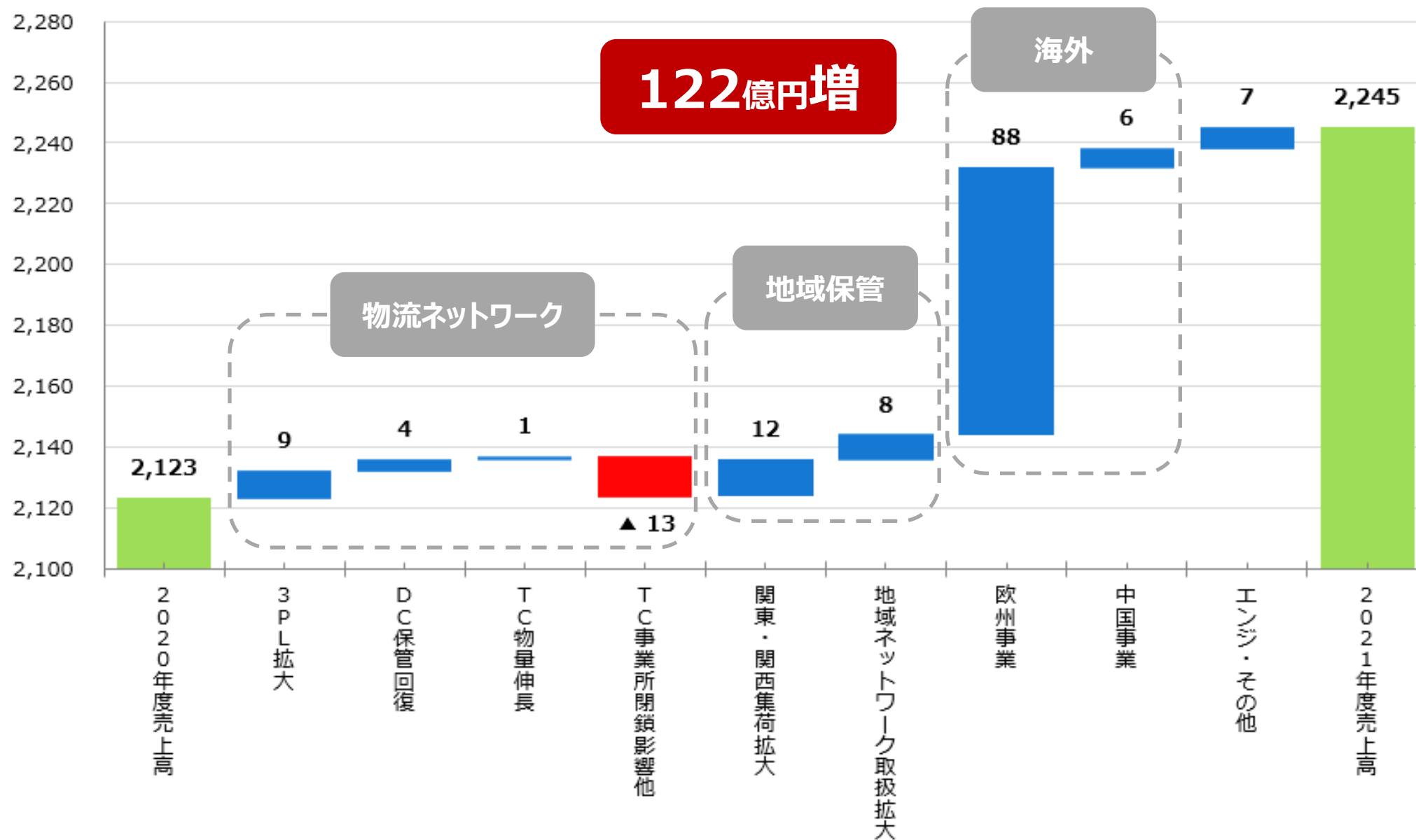
単位：億円



2. 2022年3月期 決算概要

[連結：売上高の増減要因]

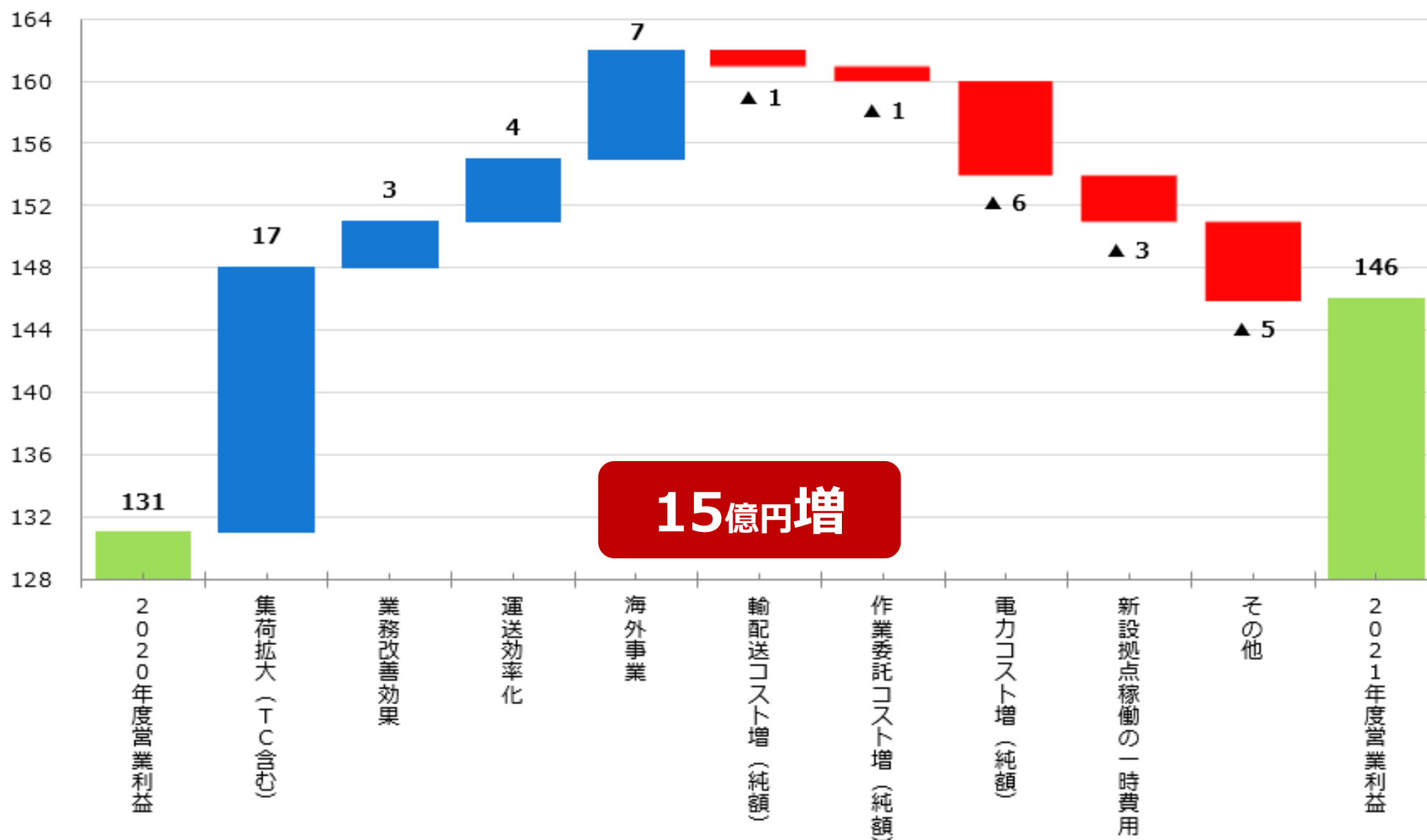
単位：億円



2. 2022年3月期 決算概要

[連結：営業利益の増減要因]

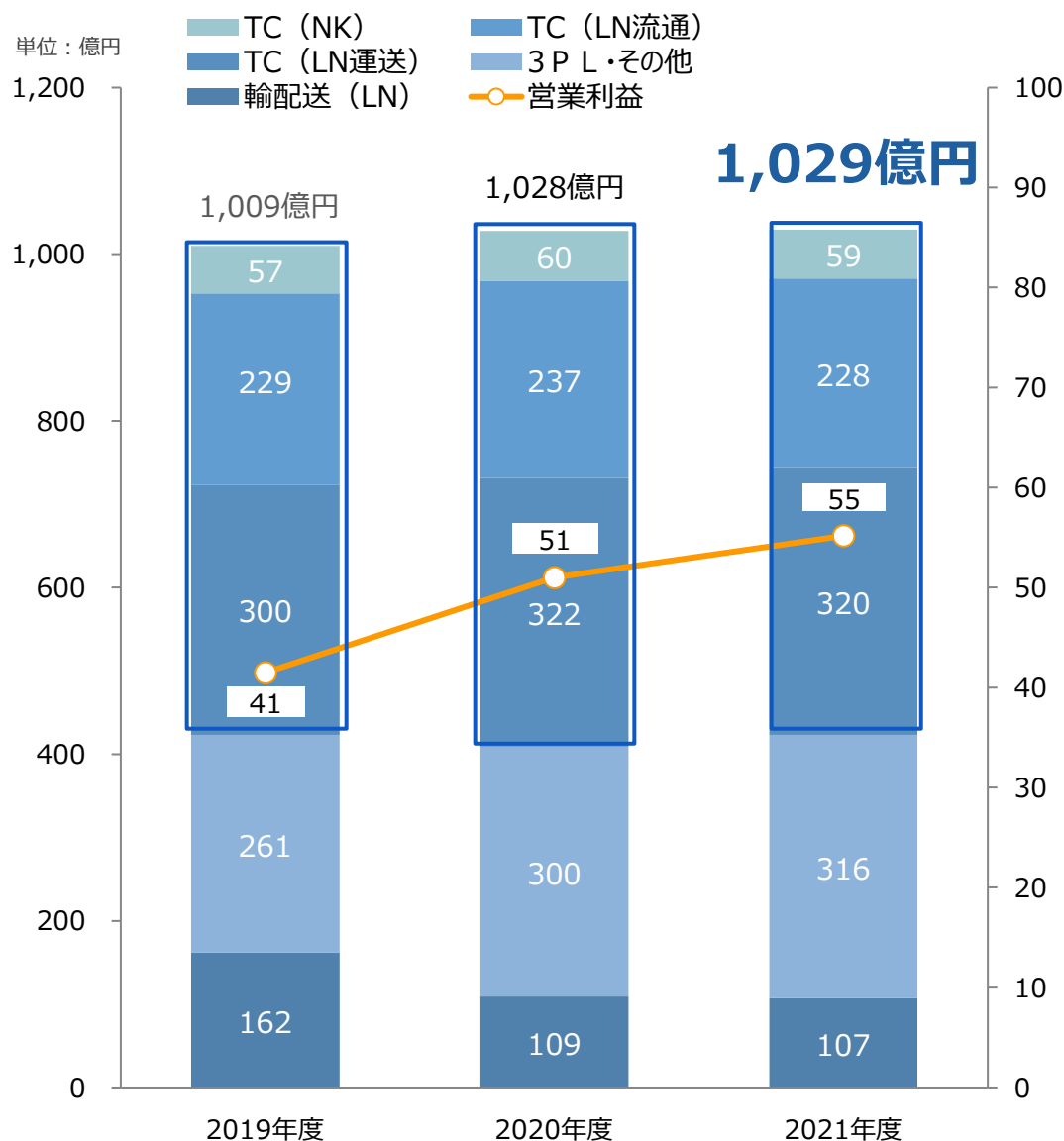
単位：億円



2. 2022年3月期 決算概要

[物流ネットワーク事業]

売上高・営業利益推移



注1：2020年度業績には地域保管事業への移管分売上高▲60億円含む（以降年度も同様）

トピックス

家庭用商材好調継続を背景に業績は堅調に推移 車両台数適正化等がコスト上昇影響をカバー

■ TC事業

- 一部事業所の閉鎖がマイナスに影響するも、家庭用商材の需要の取込により前年並みで推移

■ 3PL事業

- 家庭用商材需要増のほか業務用商材の回復を取込むことで業績を牽引

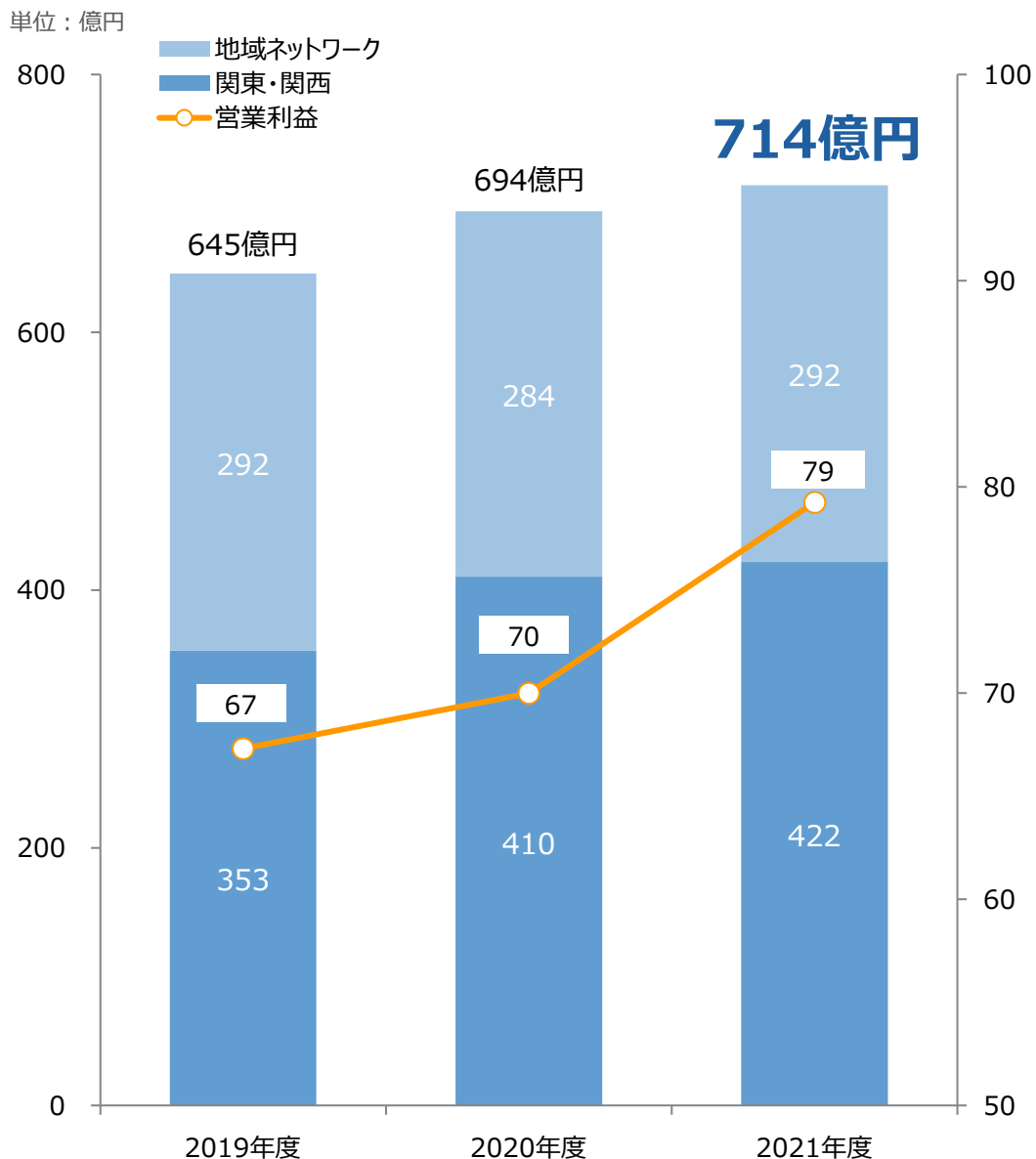
■ 輸配送事業

- 適正車両台数コントロールにより効率化進展
- 2024年問題への対応に向けた投資拡大

2. 2022年3月期 決算概要

[地域保管事業]

売上高・営業利益推移



トピックス

大都市圏での搬入増や新設センターの本格稼働、業務効率化の進展により増収増益

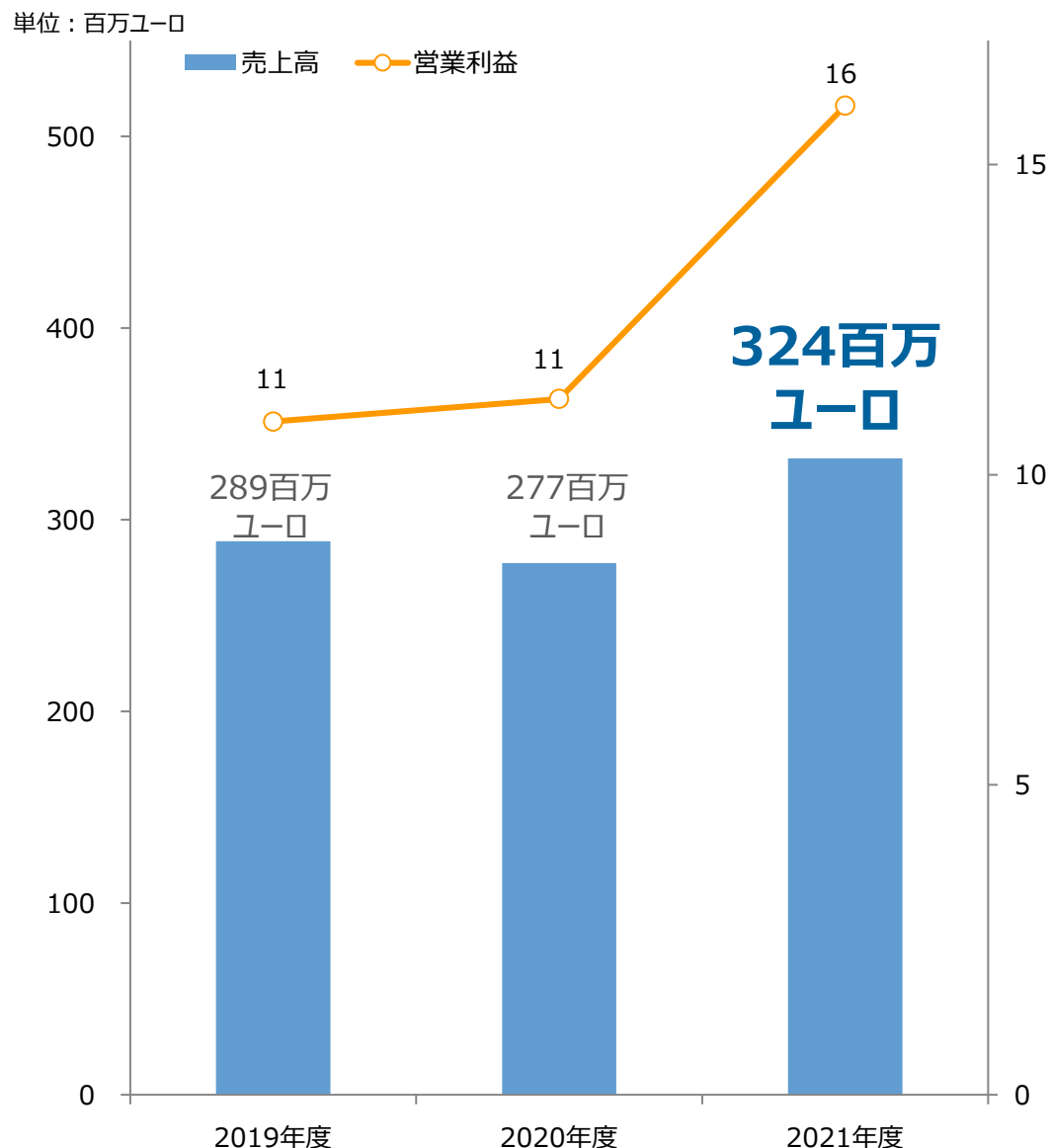
- 大都市圏
 - 家庭用商材需要増ならびに業務用商材の回復を取込むことで増収増益を達成
 - 電力および作業コスト上昇に対し、省エネ・省力化施策の実施によりマイナス影響をカバー
- 地域ネットワーク
 - 名古屋みなとおよび本牧物流センターの稼働本格化による各エリア物流ニーズの確実な取込
 - 地域特性に合った輸配送基盤構築による集荷拡大

注1：2020年度業績には物流ネットワーク事業からの移管分売上高60億円含む（以降年度も同様）

2. 2022年3月期 決算概要

[欧州事業]

売上高・営業利益推移



※グラフ数値は社内取引消去後数値

トピックス

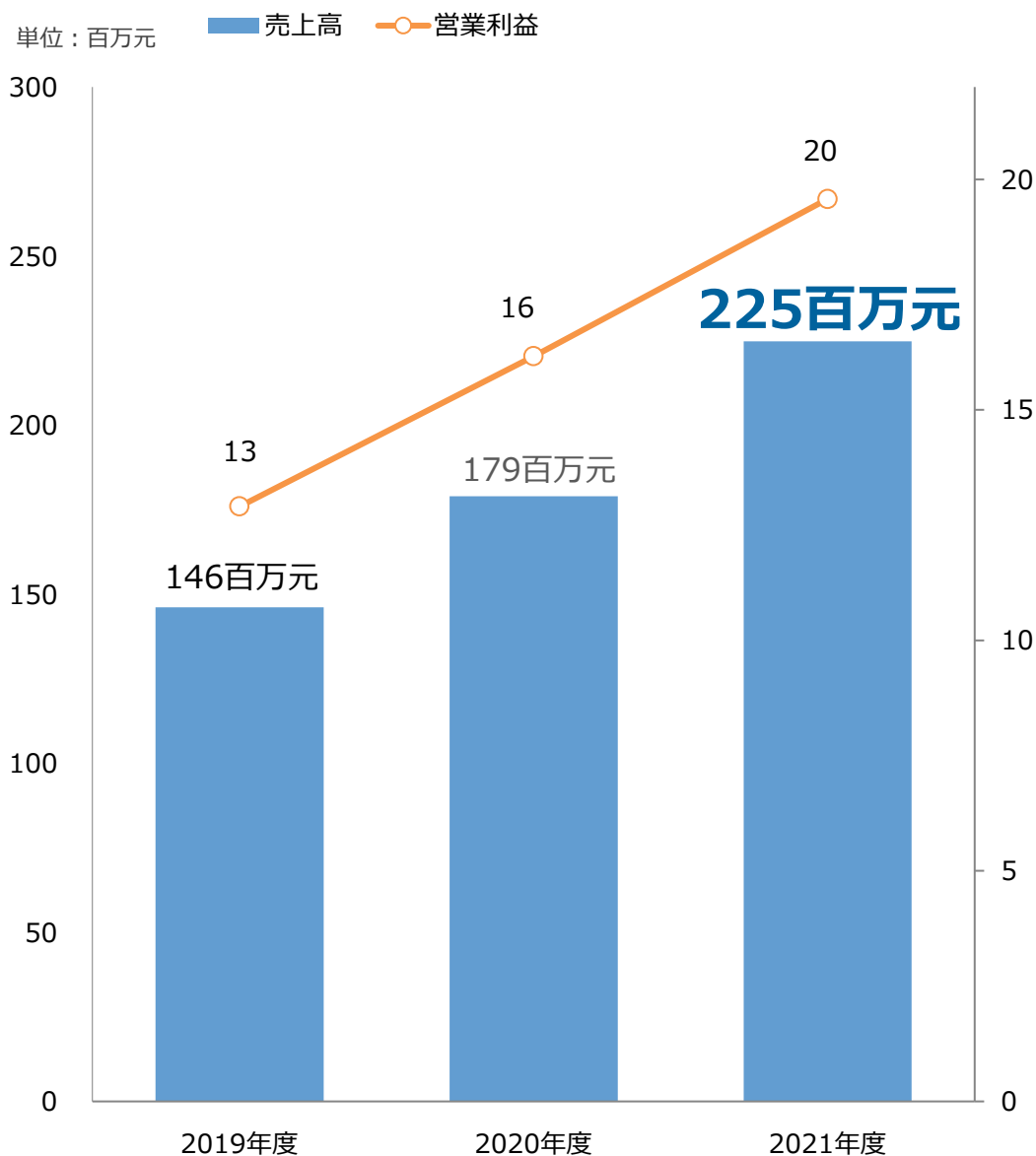
欧州全域における消費回復が成長を後押しし、増収増益

- オランダ・英国・フランス（川上・川中事業領域）
 - Brexitに伴う物流ニーズの着実な取り込み
 - 果汁原料作柄不良や海上運賃高騰による搬入量減少をコストコントロールでカバー
 - 外食需要回復に伴う問屋向け運送物量復調
- ドイツ・ポーランド（川下事業領域）
 - 家庭用商材取扱いの好調継続
 - ポーランド新設XD拠点活用による運送効率化

2. 2022年3月期 決算概要

[中国事業]

売上高・営業利益推移



トピックス

CVS取扱い物量増により業績伸長、増収増益

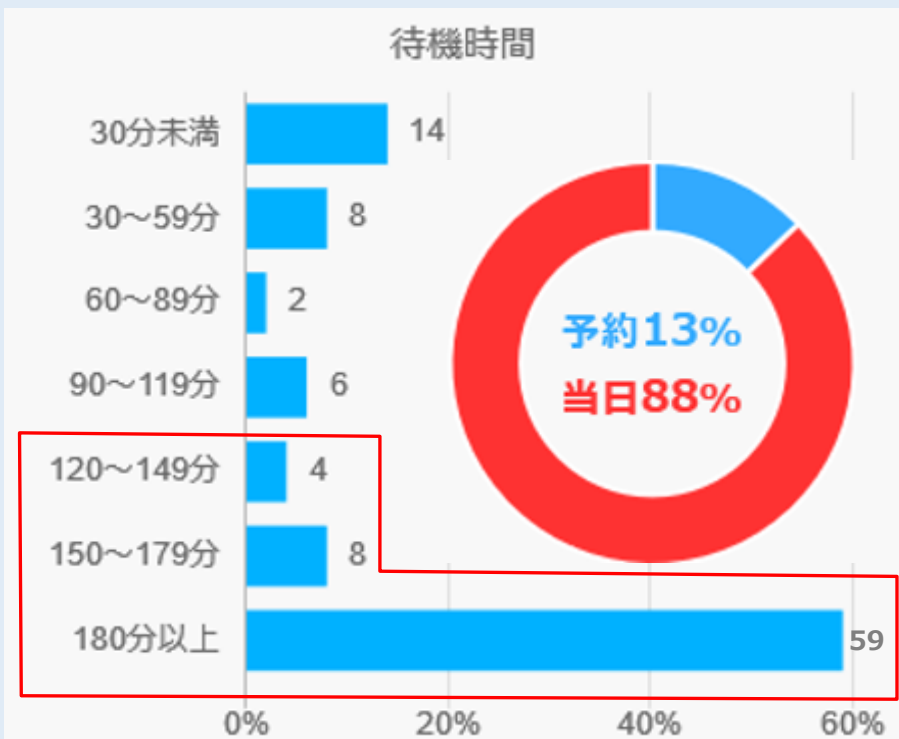
- 上海エリア
 - ・ 店舗増によるCVS事業の売上拡大
 - ・ 配送を中心とした効率化によるコスト抑制
- 江蘇・南京エリア
 - ・ CVS向け取扱い物量の好調継続
 - ・ 南京低温物流センターの安定稼働による事業基盤の拡充

【トピック】トラックバース完全予約制の全国30拠点導入

- 完全予約制を導入したセンターでは97%の車両の待機時間を60分以内に短縮
- 深夜・早朝時間帯の待機車両と物流センター周辺における駐車車両の削減、バース接車時間の確認連絡が減少したことにより受付業務の負荷も軽減

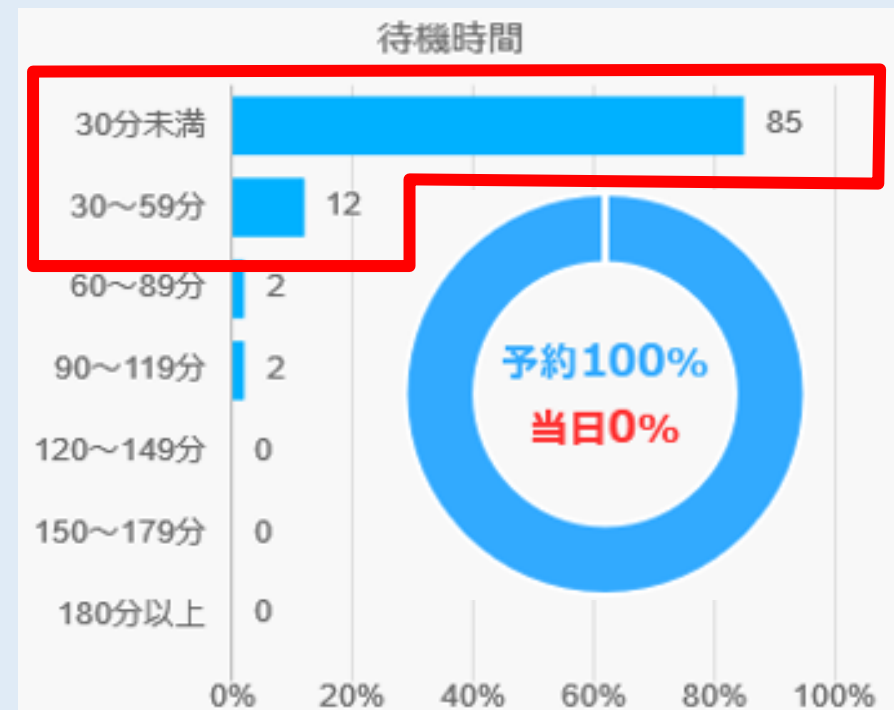
Before

2H以上待機車両 71%



After

1H以内待機車両 97%



1. 企業概要

2. 2022年3月期 決算概要

3. 前中期経営計画（2019-2021）

4. 新中期経営計画（2022-2024）

5. 参考資料

3. 前中期経営計画（2019-2021）

[業績結果と主な成果]

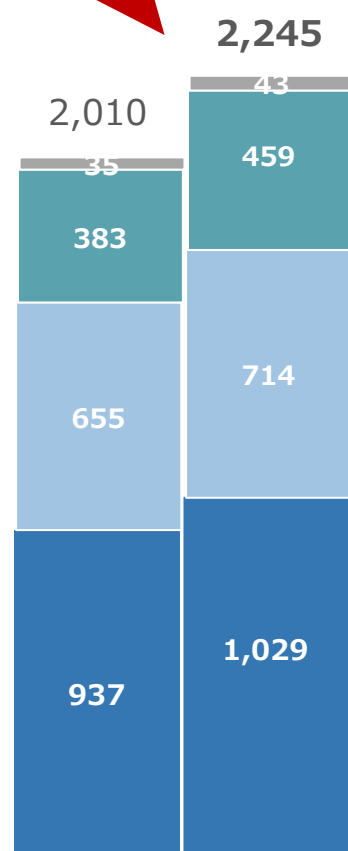
売上高

営業利益

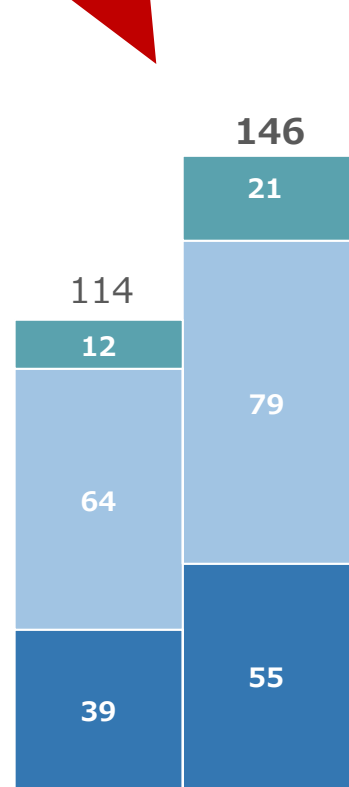
- その他
- 海外事業
- 地域保管事業
- 物流ネットワーク事業

単位：億円

235億円増



32億円増



組織基盤

- 業務革新の推進
先端技術の活用による庫内作業のデジタル化推進
- ダイバーシティ推進
新人事制度のスタートおよびダイバーシティ推進室の設置
- 働き方の自由度向上
サードプレイスオフィスSateCoの新設

国内

- LLPの拡大
冷食メーカーをはじめとする物流共同化の推進
- 大都市圏の基盤強化
東扇島DCの統合および関西ネットワーク化の遂行
- 新增設の稼働
那覇新港DC、名古屋みなとDCおよび本牧DCの安定稼働
- TC事業の伸長
巣ごもり需要による物量増加への着実な対応

海外

- 欧州事業基盤の強化
庫腹増強とM & Aの実現による事業基盤の強化
- 中国事業の拡大
顧客店舗の出店増に応じた物流サービスの提供
- ASEAN事業の拡大
SCGN2期棟の安定稼働

1. 企業概要
2. 2022年3月期 決算概要
3. 前中期経営計画（2019-2021）
4. 新中期経営計画（2022-2024）
5. 参考資料

4. 新中期経営計画（2022-2024）

[新中計の位置づけ・基本方針]

現状認識

外部環境

政治経済 (国内外)

- ・コロナ影響による経済停滞
- ・労働力不足の深刻化
- ・ウクライナ情勢緊迫化

物流業界

- ・2024年問題への対応
- ・世界的なサプライチェーンの乱れ
- ・エネルギー価格高騰によるコスト増

社会要請

- ・DX・イノベーションの推進
- ・サステナビリティへの対応強化

新中計

飛躍的成長に向けた**基盤強化の3年**

基本方針

国内

次世代に向けた事業基盤の構築

海外

売上・利益両面における成長実現

業革・技術

業革・エンジ強化による技術基盤整備

組織・機能

持続的成長に向けた企業体質の強化

目指す姿

食品低温物流事業者として**圧倒的な存在感の獲得**

4. 新中期経営計画（2022-2024）

[基本戦略]

➤ 国内は2024年問題対応への基盤強化、海外は売上・利益両面での成長を図る

Compass Rose 2024

<コンパス・ローズ>
地図や海図に東西南北の方位を示すために置かれる
羅針図形

国内事業 次世代事業基盤の構築

- ◆ 新たな輸配送システムの構築
- ◆ 大都市基盤の強化
(関東NW化、神戸六甲地区新設)

- ◆ データドリブン運営の推進
- ◆ 自動化・省力化の展開
- ◆ エンジニアリング機能の強化

業革・技術 技術基盤の整備

売上・利益両面での成長 海外事業

- ◆ 欧州投資シナジー効果最大化
- ◆ 中国・ASEAN事業拡大
- ◆ 新規エリアの機会探索

- ◆ 働きがいの向上
- ◆ ブランディングの強化
- ◆ ダイバーシティのさらなる推進

企業体質の強化 組織・機能

【マテリアリティ】

- 新たな価値の創造
- 低温物流サービス高度化
- 持続可能な社会の実現
- 気候変動への取組み
- 多様な人財の確保・育成

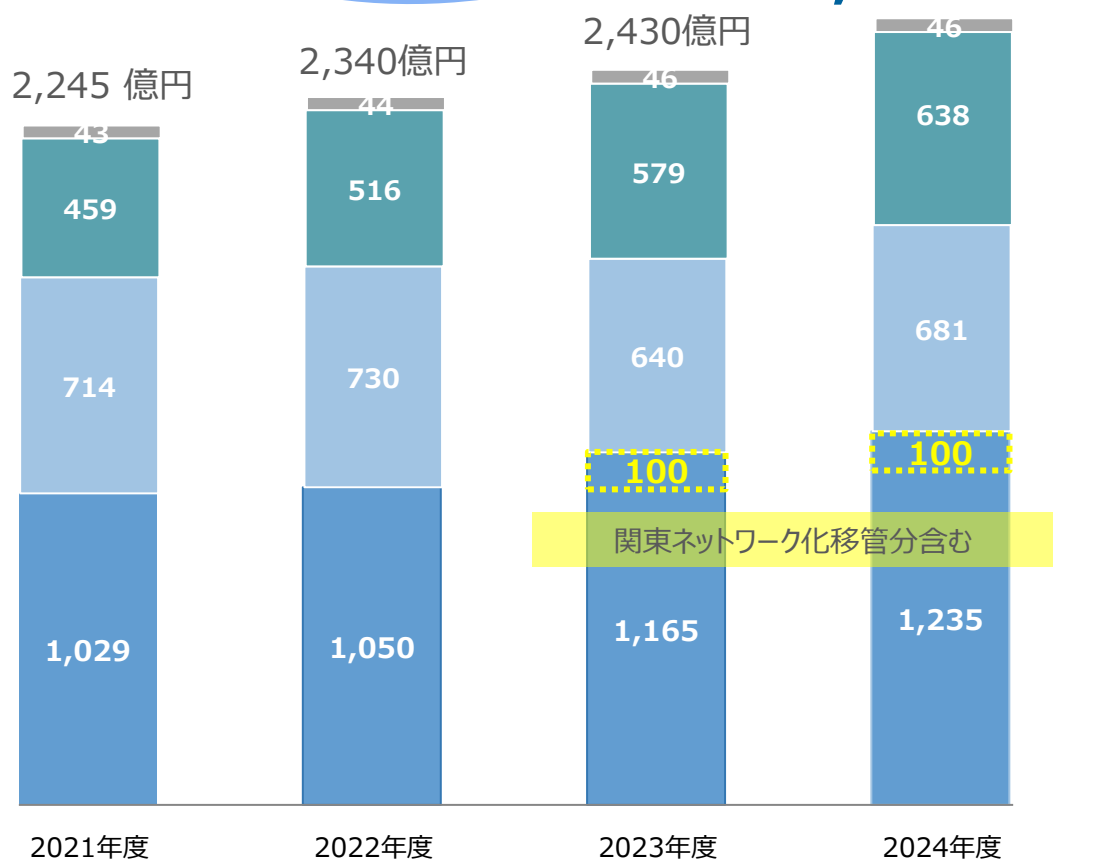
4. 新中期経営計画（2022-2024）

[経営目標]

売上高

- その他・共通
- 海外事業
- 地域保管事業
- 物流ネットワーク事業

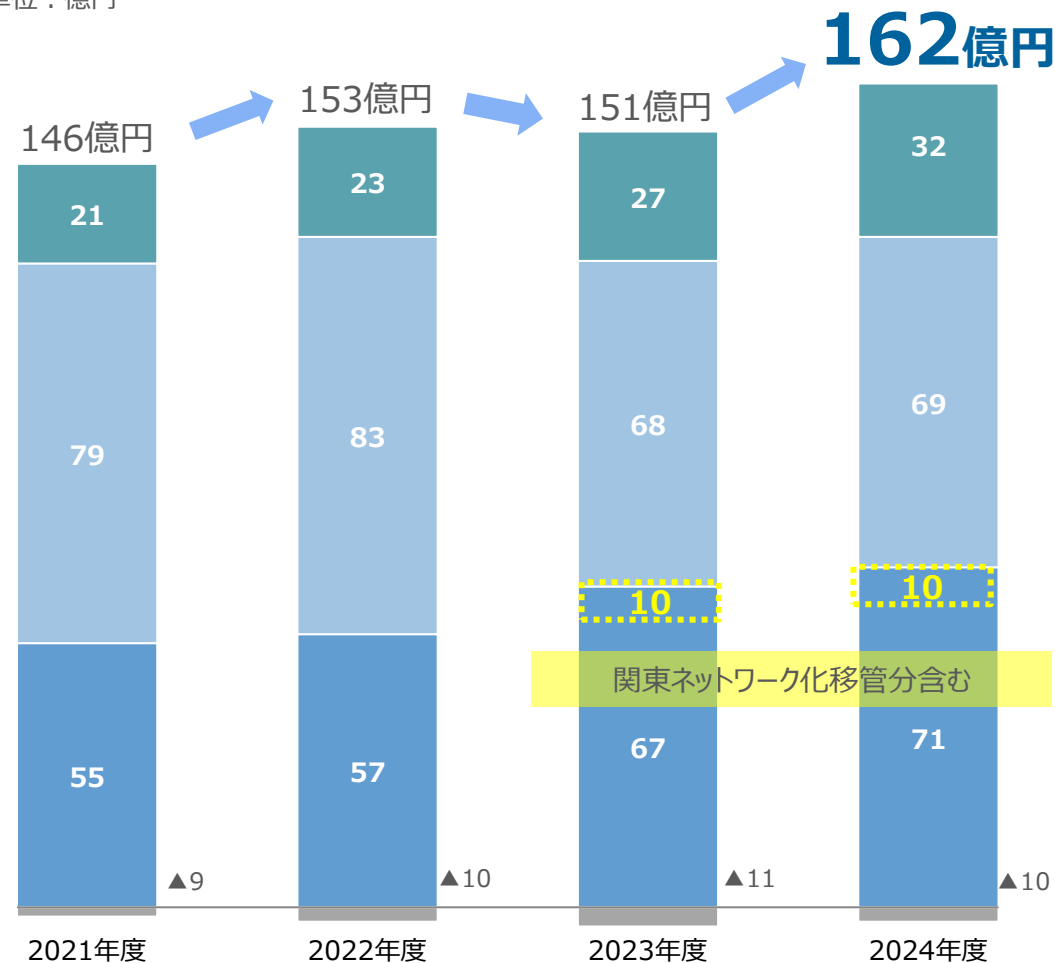
単位：億円



営業利益

- その他・共通
- 海外事業
- 地域保管事業
- 物流ネットワーク事業

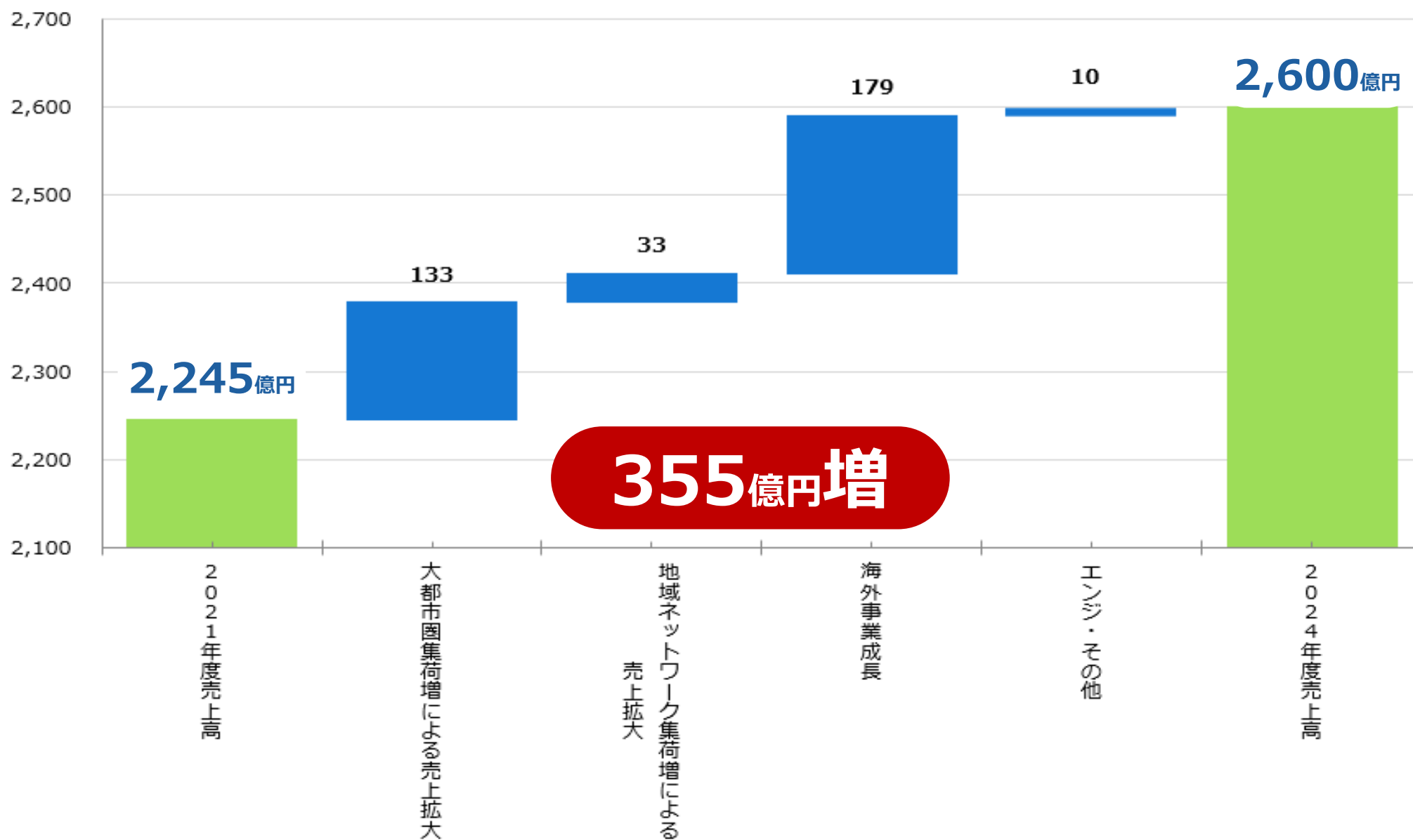
単位：億円



4. 新中期経営計画（2022-2024）

[売上高の増減要因]

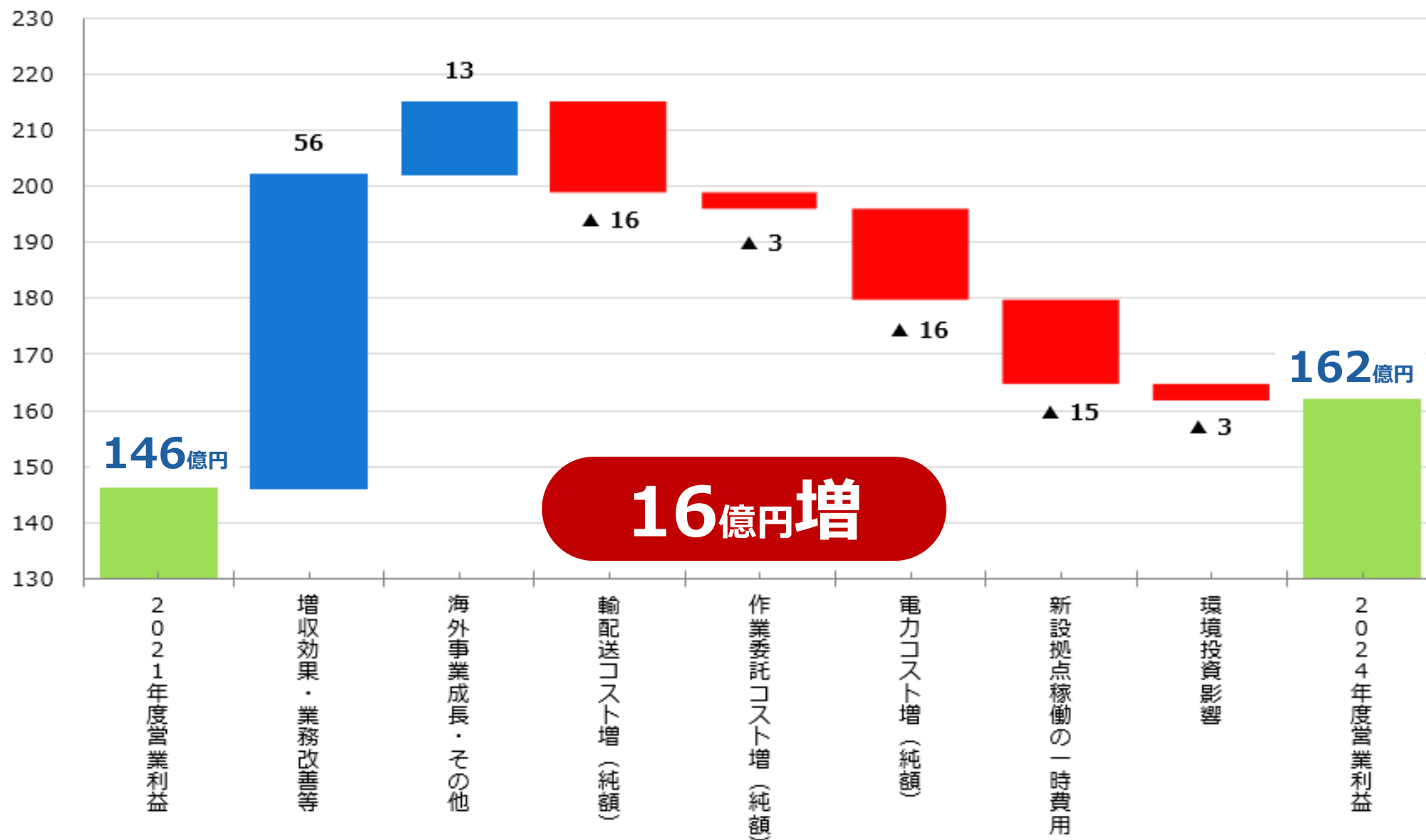
単位：億円



4. 新中期経営計画（2022-2024）

[営業利益の増減要因]

単位：億円



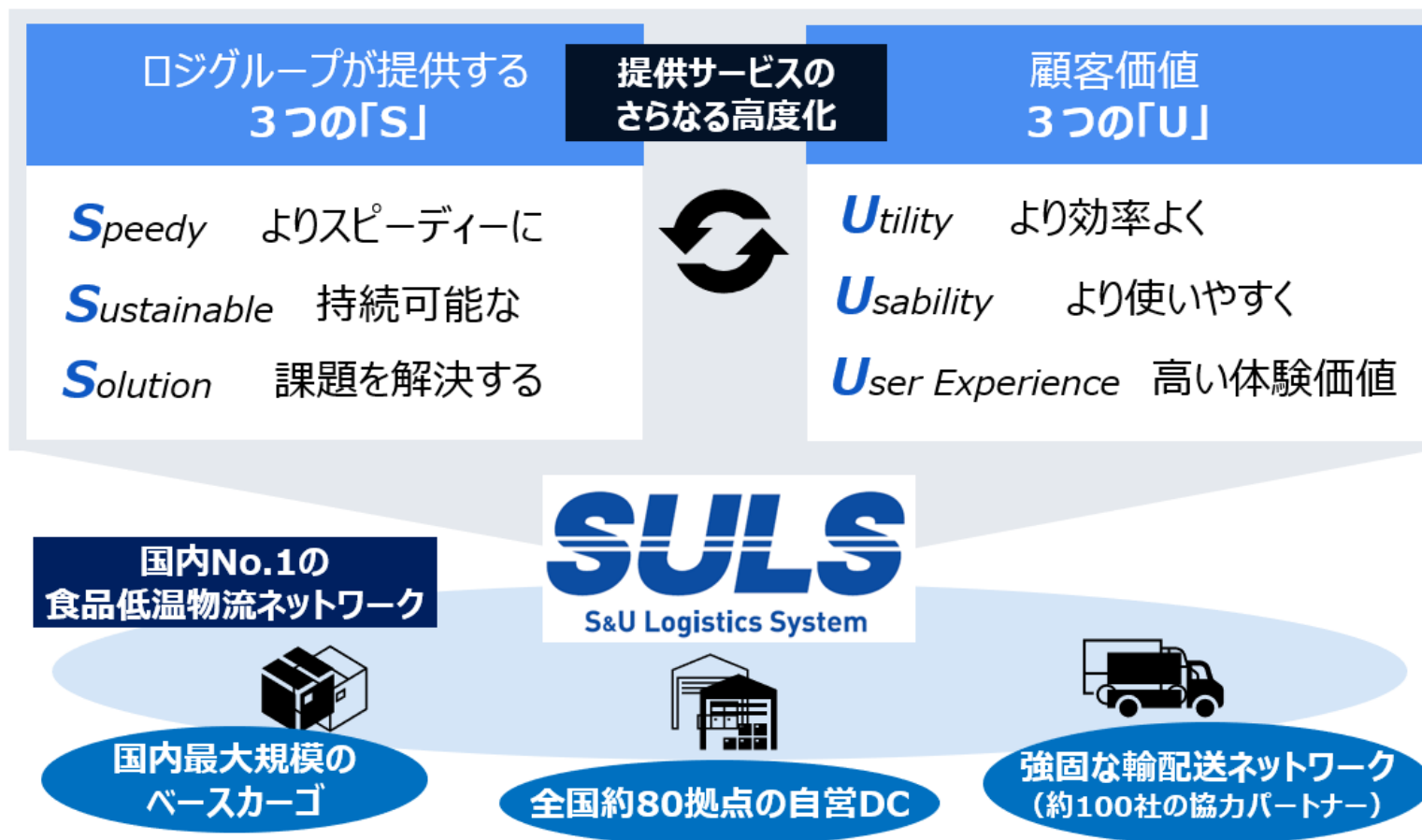
4. 新中期経営計画（2022-2024）

[輸配送基盤強化]

- 次世代輸配送システム「SULS(サルス)」整備の着手による新たな輸配送基盤構築
- 労働力不足やトラックドライバー2024年問題などの社会課題への対応強化

目指す姿

革新的で持続可能な輸配送システムの構築を通じた顧客の利用体験価値向上



4. 新中期経営計画（2022-2024）

[輸配送基盤強化]

SULSの 特徴

1. 荷台部分の切り離しが可能なトレーラーの活用により、中継輸送を推進
2. ドライバー荷役作業をロジグループ拠点側で対応
3. ロジグループが新たに24パレット積みトレーラー（荷台部分）を保有

新たな 価値

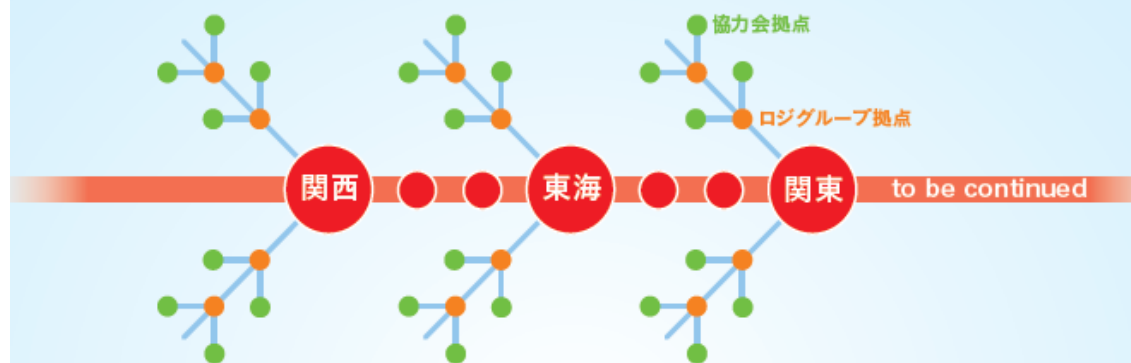
- 安定的でサステナブルな輸配送の実現（「運べなくなるリスク」の解消）
- ドライバーの拘束時間短縮による法令を順守した運行の維持
- 発注へのフレキシブル対応による利便性の向上や環境負荷の低減

国内最大積載の24パレット積みトレーラー



今後の展開イメージ

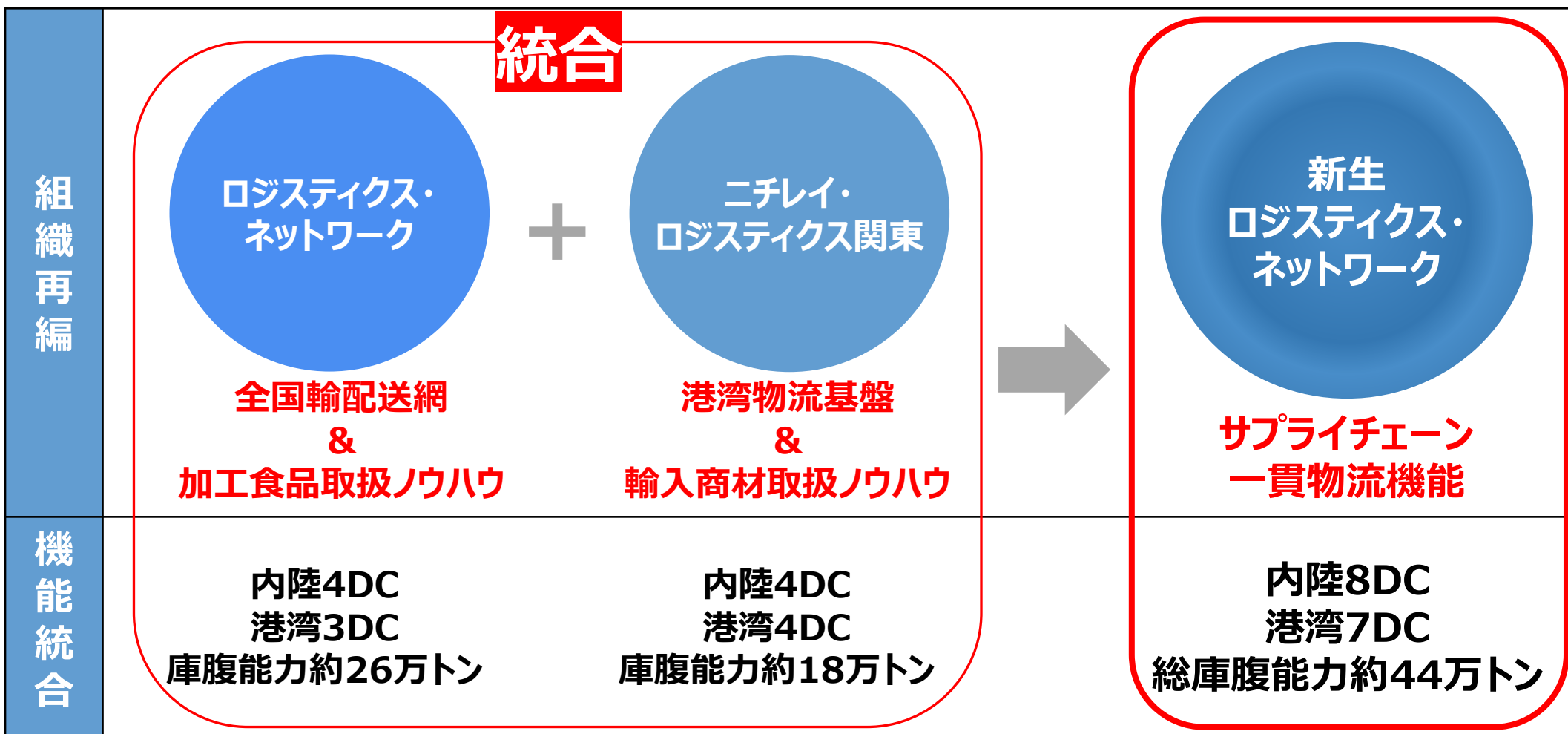
東名阪からスタートし、順次拡大



4. 新中期経営計画（2022-2024）

[大都市圏基盤強化に向けた関東ネットワーク化]

- 2023年4月にロジスティクス・ネットワークとニチレイ・ロジスティクス関東を統合
- 保管と運送一体化運営および貨物・機能再編に伴う、サプライチェーン一貫物流サービスを創出することで、顧客ニーズへの機動的な対応を実現



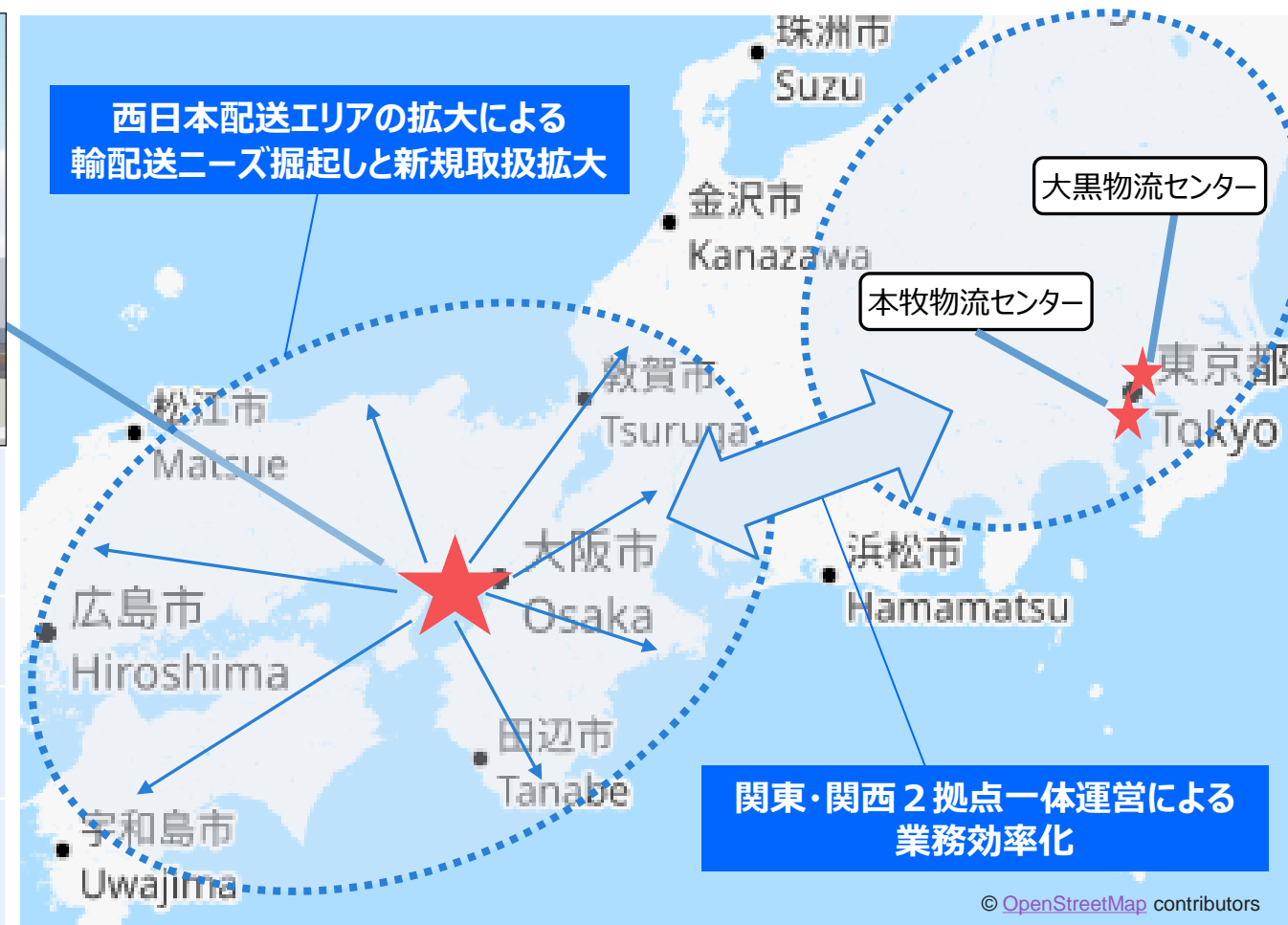
4. 新中期経営計画（2022-2024）

〔西日本におけるキョクレイブランドの確立〕

- 神戸六甲地区稼働（2023年下半期予定）による西日本エリアでの果汁・乳製品ニーズの取込
- 本牧物流センターおよび大黒物流センターとの一体運営により、通関から輸配送までを担うキョクレイ型一貫ビジネスモデルの東西エリアにおけるユニバーサルサービス化を実現



設備能力	約22,000トン (F級 約10,000トン、FC級 約7,000トン、C級 約5,000トン)
接車バース	12バース
設置機能	ドラム缶解凍機能
建築構造	冷蔵棟：RCS造 4階建(免震) 事務棟：鉄骨造 3階建(耐震)



4. 新中期経営計画 (2022-2024)

[欧州事業における投資シナジー効果の最大化]

➤ 前中計で実行した投資効果の発揮による事業の収益最大化

(欧州全体で約16万トンの庫腹増強・M&A実現による機能拡充)

英国:ケビンハンコック社買収



英国での付加価値サービス機能の獲得

英国:ハッシュ社買収



英国での保管機能の獲得(計約11万t)

フランス:ルアーブル倉庫増設



8,000トンの庫腹増強・XD機能新設

オランダ:マースフラクタ倉庫増設



23,000トンの庫腹増強

② 輸配送拡大

フランス:リヨン倉庫増設



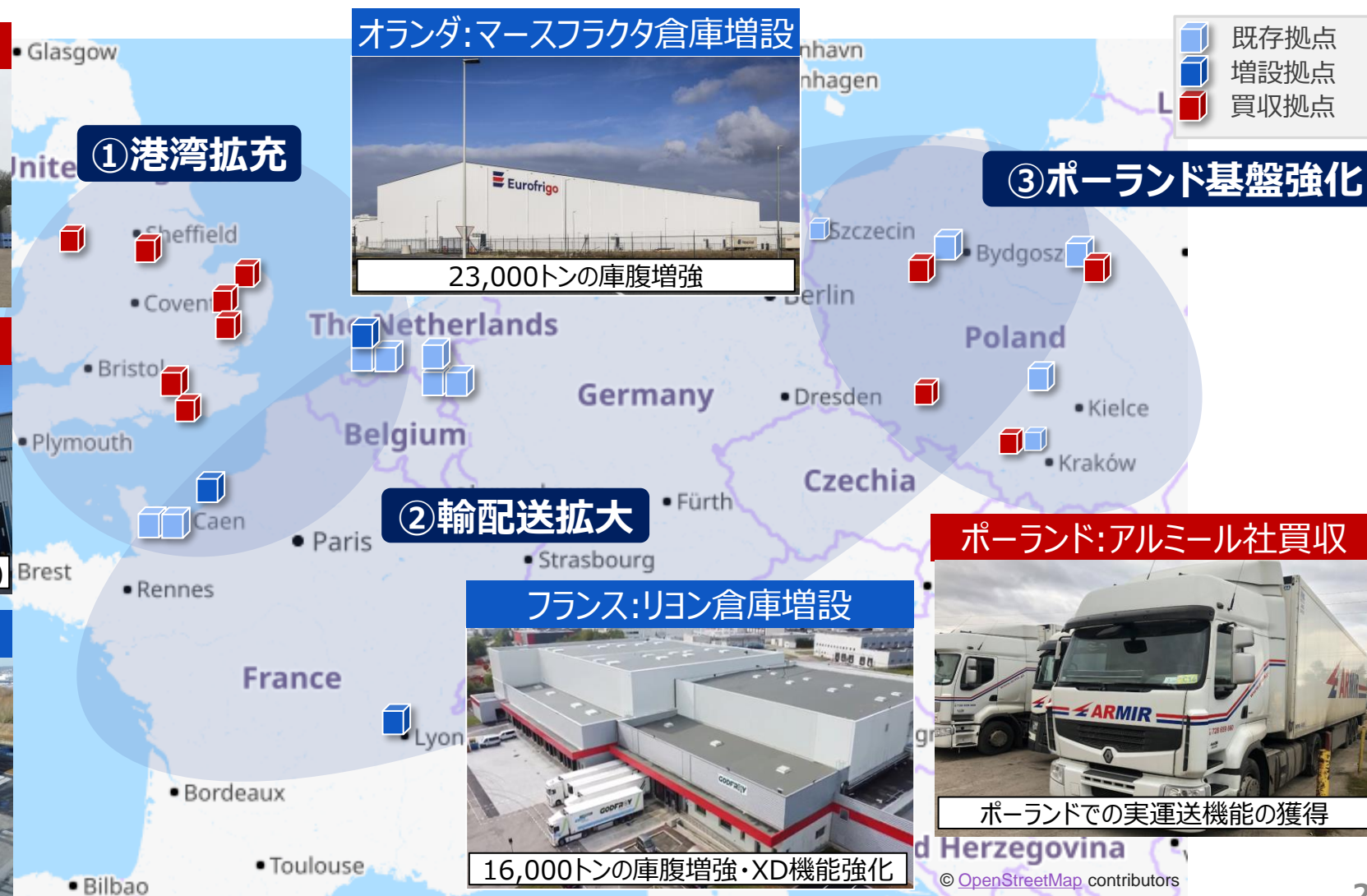
16,000トンの庫腹増強・XD機能強化

③ ポーランド基盤強化

ポーランド:アルミール社買収



ポーランドでの実運送機能の獲得



4. 新中期経営計画（2022-2024）

[欧州事業における投資効果の最大化（動画：フランス ゴドフロア社リヨン倉庫）]



4. 新中期経営計画（2022-2024）

[中国・ASEAN地域での事業拡大]

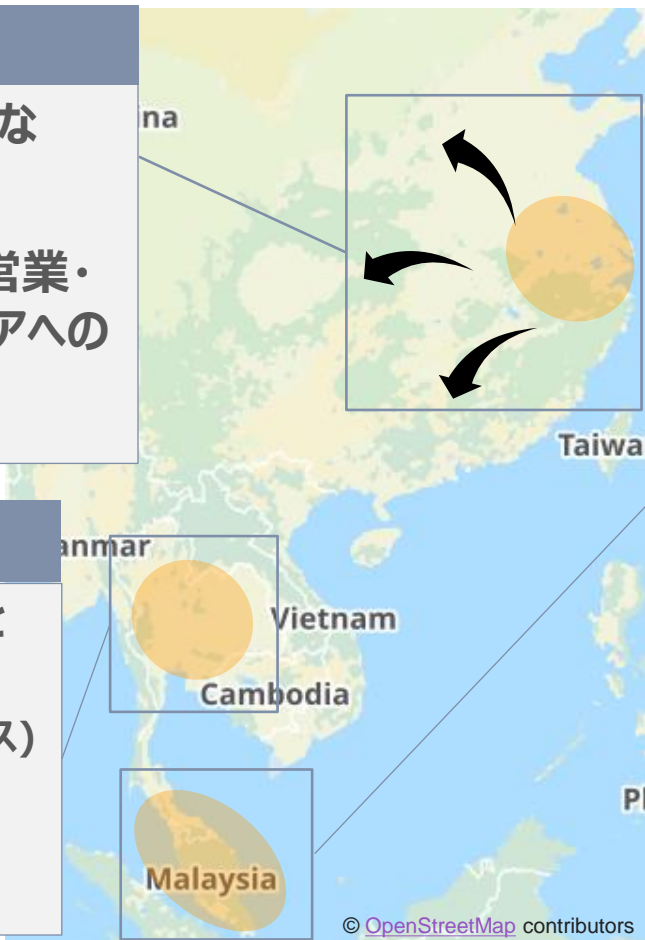
- 中国：低温物流ニーズの高まりに伴う事業のさらなる拡大
- ASEAN：保管・運送機能のさらなる高度連携による一貫サービスの拡大
- 新規：周辺エリアを中心に進出機会を継続探索

中国事業

- 大手CVS顧客出店増への着実な対応
- 華東地区のノウハウを活かした営業・投資活動の展開を通じた他エリアへの進出

タイ事業

- 2期棟増設によるサービス拡充を通じた集荷拡大
(複数温度帯への対応、付加価値サービス)
- 2期棟の本格稼働による保管・運送一貫サービスの拡大



マレーシア事業

- NLCCNとLitt Tattの連携強化による業容拡大

NLCCN

保管機能
(設備能力：約45,000トン)

Litt Tatt

運送機能
(保有車両台数：188台)



4. 新中期経営計画（2022-2024）

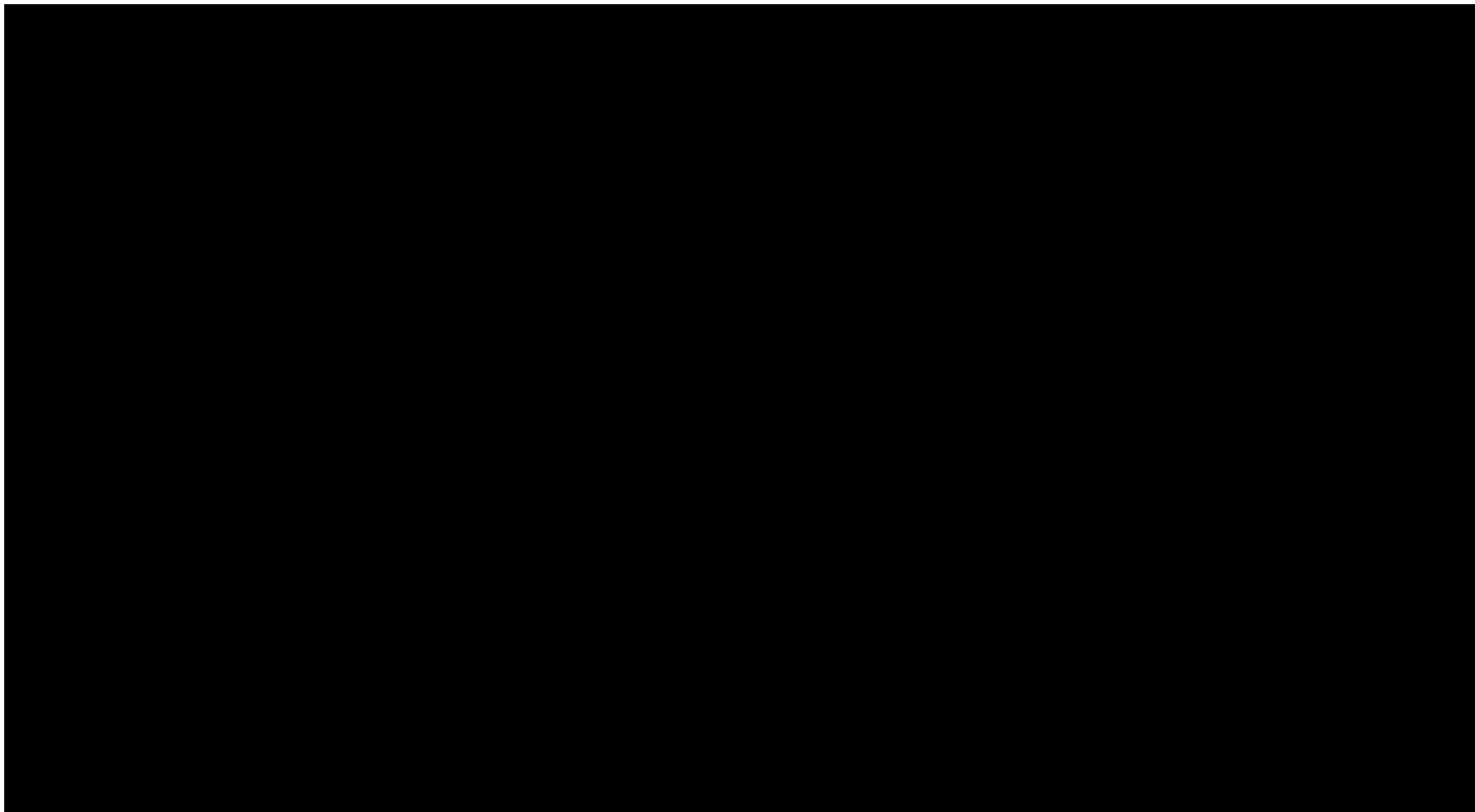
〔業務革新推進によるDXの加速〕



自動化
および
省力化施策

4. 新中期経営計画（2022-2024）

[遠隔操作ロボットによるカゴ台車への混載積み付けによる作業自動化推進
（動画：(株)ロジスティクス・ネットワーク東扇島物流センター）]



4. 新中期経営計画（2022-2024）

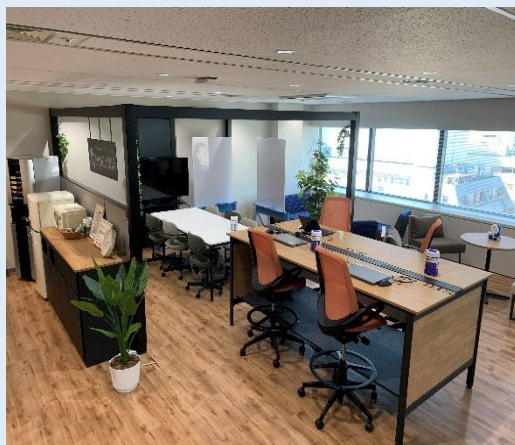
[働きがい向上に向けたコンテンツ充実]

サードプレイスオフィス 東西2拠点の開設

■ SateCo大阪梅田



■ SateCo横浜



※「SateCo」は(株)ニチレイロジグループ本社の登録商標です。

インナー・アウターコミュニケーションの 活性化

■ 社内SNSツール“MIRU心（ミルコ）”の稼働

見つめあって、わかり合おう。
MIRU心

ニチレイロジグループは、社員一人ひとりの仕事だけではなく、心まで見つめる会社でありたい。また社員同士も、心を見つめあう会社でありたい。“MIRU心”で、わかり合おう。ここは、心を見る場所。

■ 社外向けコミュニケーションスタジオの設置



4. 新中期経営計画（2022-2024）

[ニチレイグループ 重要事項]

➤ グループ長期経営目標「2030年の姿」の実現に向けた取り組みの強化

重要事項（マテリアリティ）	目指す姿
1. 食と健康における新たな価値の創造	食と健康における既存事業領域を超えた挑戦により、新たな市場や顧客価値を創造する
2. 食品加工・生産技術力の強化と低温物流サービスの高度化	食品の加工・生産、低温物流で培ったコアコンピタンスをさらに磨き上げ、グローバル市場において、社会課題の解決と競争優位性による収益力向上を実現する
3. 持続可能な食の調達と循環型社会の実現	事業の基盤であるサプライチェーンに関わるさまざまな社会課題を解決し、持続可能な食の調達と循環型社会の実現に貢献する
4. 気候変動への取り組み	気候変動の影響を大きく受ける食品・物流企業として、サプライチェーン全体での温暖化対策やエネルギー削減をステークホルダーとともに取り組む
5. 多様な人財の確保と育成	持続可能な成長を実現するため、多様な人財を確保・育成するとともに、包摂的な企業風土を醸成する

ロジグループの
主な取り組み

ロジグループ全体の
収益力向上

環境負荷低減の
取り組み推進

ダイバーシティ推進

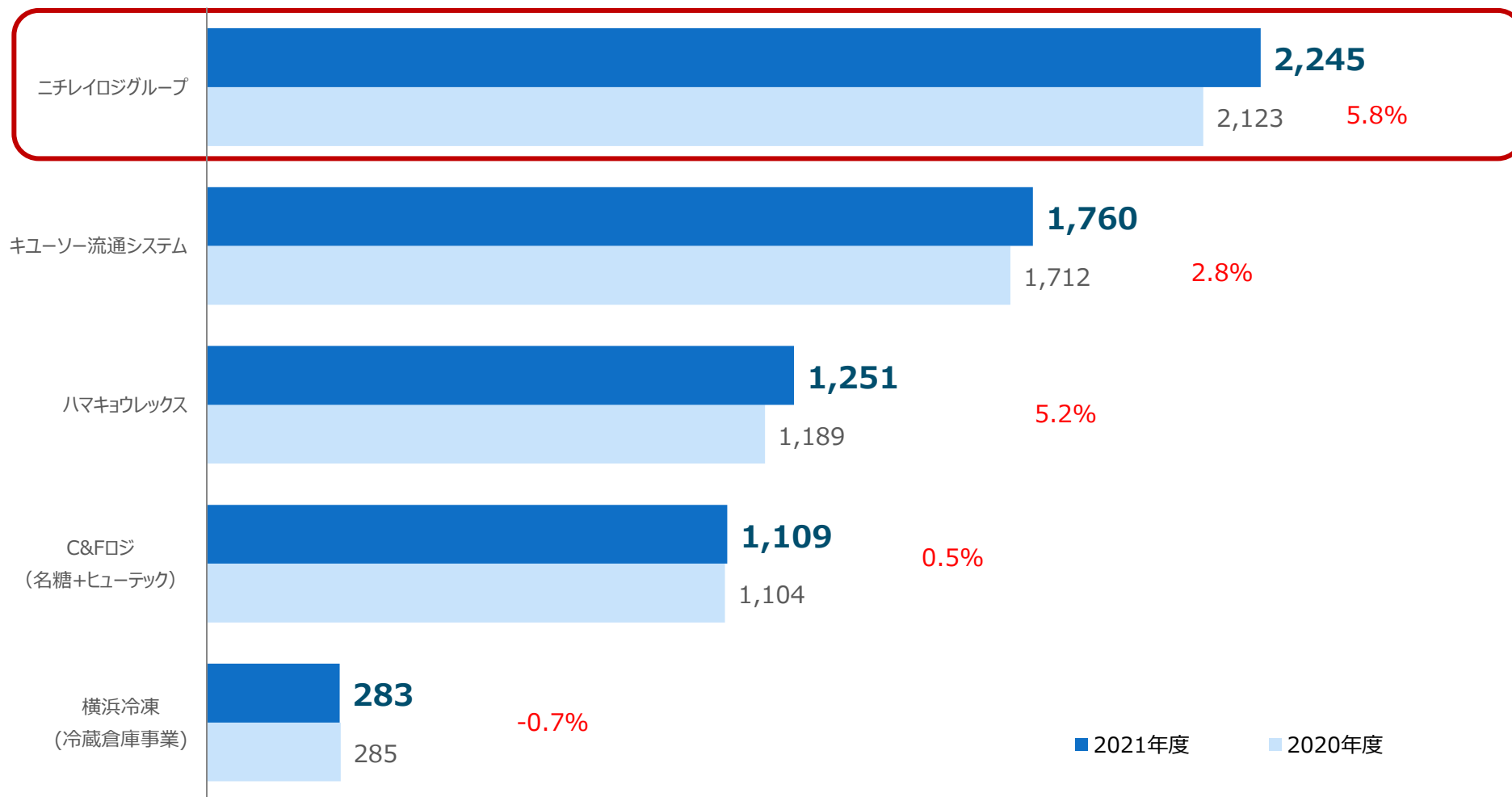
1. 企業概要
2. 2022年3月期 決算概要
3. 前中期経営計画（2019-2021）
4. 新中期経営計画（2022-2024）
5. 参考資料

5. 参考資料

[ポジション①]

主要低温物流企業の売上高

単位：億円



※低温物流を主とする物流会社を選定

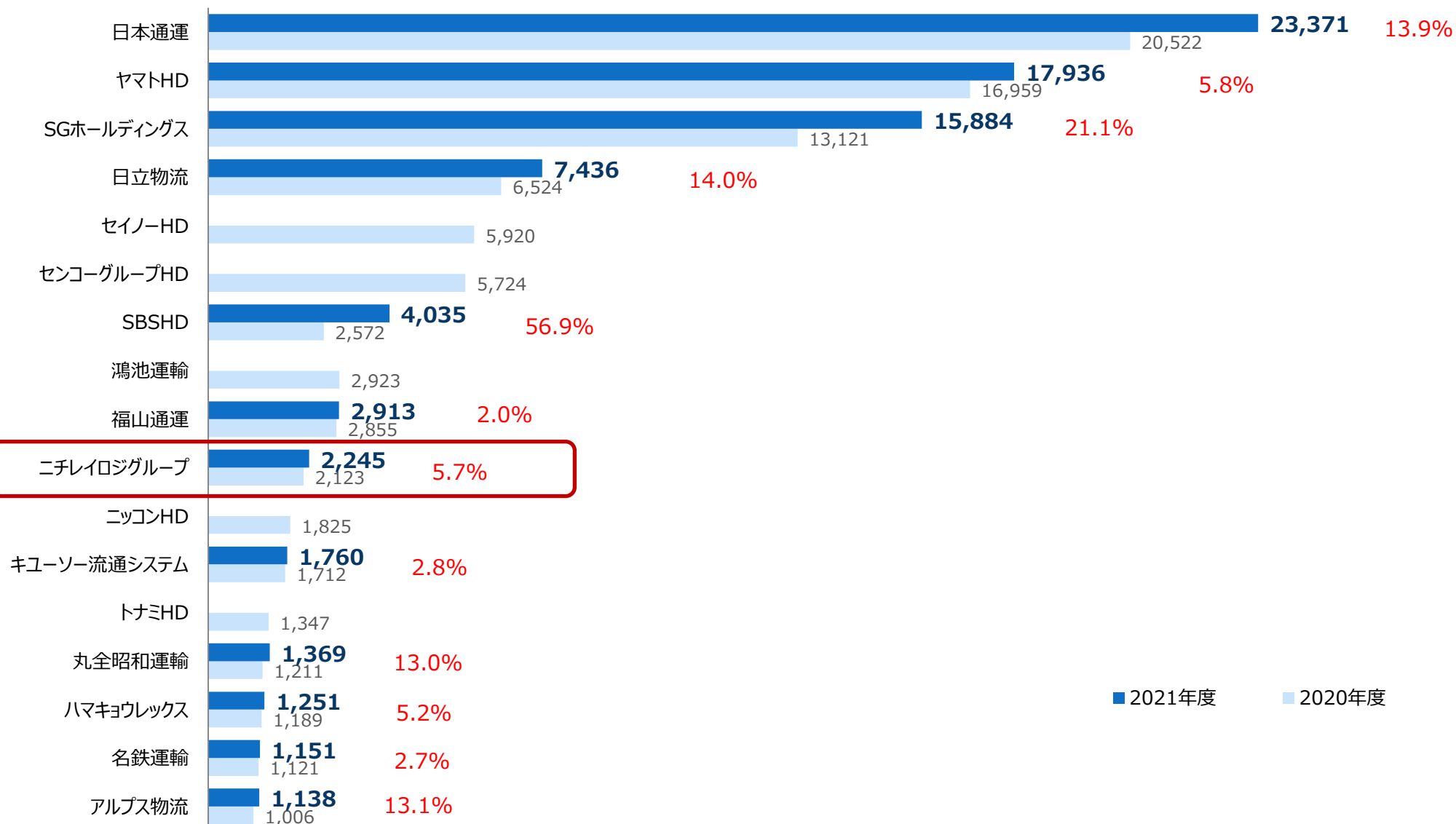
※各社決算短信（2022年5月12日時点の最新版）における年度実績数値を基に作成。

5. 参考資料

[ポジション②]

主要物流企業（陸運）の売上高

単位：億円



※トラックによる輸送を主とする物流会社を選定

※各社決算短信（2022年5月12日時点の最新版）における年度実績数値を基に作成。決算未発表会社の業績については空白。

5. 参考資料

[ポジション③]

冷蔵倉庫設備能力国内ランキング(推計)

順位	会社名	設備能力(ト)	全国シェア
1	ニチレイロジグループ	1,550,257	9.1%
2	横浜冷凍(株)	939,086	5.5%
3	(株)マルハニチロ物流	662,316	3.9%
4	東洋水産(株)	606,230	3.6%
5	(株)C&Fロジホールディングス	520,766	3.1%
6	日水物流(株)	440,919	2.6%
7	(株)松岡	362,716	2.1%
8	(株)ランテック	322,069	1.9%
9	(株)キューソー流通システム	289,463	1.7%
10	鴻池運輸(株)	247,975	1.5%
11	(株)二葉	244,941	1.4%
12	五十嵐冷蔵(株)	224,193	1.3%
13	(株)ハウスイ	215,180	1.3%
14	(株)兵食	175,973	1.0%
15	(株)日本物流センター	172,110	1.0%
16	第一倉庫冷蔵(株)	158,424	0.9%
17	藤林グループ	155,698	0.9%
18	日本デイリーネット(株)	135,182	0.8%
19	寶船冷蔵(株)	125,199	0.7%
20	ムロオ	123,958	0.7%

※出所：日本冷蔵倉庫協会 2021年11月資料【冷蔵倉庫の諸統計】をもとに加工

冷蔵倉庫設備能力世界ランキング

No	Company	Locations	Capacity(m3)
1	Lineage Logistics	United States,etc	60,899,890
2	Americold Logistics	United States,etc	40,233,935
3	United States Cold Storage	United States,etc	10,806,127
4	NewCold Advanced Cold Logistics	United States,etc	6,088,009
5	Nichirei Logistics Group, Inc	Japan, etc	5,355,812
6	VersaCold Logistics Services	Canada	3,481,152
7	Interstate Warehousing, Inc	United States	3,254,500
8	Frialsa Frigorificos	Mexico	3,073,757
9	Burriss Logistics	United States	2,119,726
10	Constellation Cold Logistics	Belgium, etc	1,970,046
11	Conestoga Cold Storage	Canada	1,820,081
12	Congebec Logistics, Inc.	Canada	1,634,095
13	Comfrio Soluções Logísticas	Brazil	1,526,183
14	Superfrio Armazéns Gerais	Brazil	1,475,266
15	Hanson Logistics	United States	1,475,266
16	Magnavale Ltd.	United Kingdom	1,158,820
17	MTC Logistics	United States,etc	1,067,185
18	Friozem Armazéns Frigoríficos	Brazil	1,067,185
19	Confederation Freezers	Canada	978,614
20	Agri-Norcold A/S	Denmark	978,169

※出所：IARW(世界冷蔵倉庫協会)「Global Top25 List」2022年3月資料をもとに加工

5. 参考資料

[損益計算書（連結）]

単位：億円、端数四捨五入、（ ）内利益率

	前期		当期		前期比
売上高	2,123		2,245		+5.8%
営業利益	131	(6.2%)	146	(6.5%)	+11.8%
経常利益	127	(6.0%)	139	(6.2%)	+9.5%
税引前利益	128	(6.0%)	137	(6.1%)	+7.1%
当期純利益	87	(4.1%)	91	(4.1%)	+4.8%

※利益率は1円単位で計算

5. 参考資料

[損益計算書（セグメント別）]

(単位：百万円)

		前期	当期	前期比	増減率
売上高	物流ネットワーク	102,827	102,948	120	+0.1%
	地域保管	69,353	71,413	2,059	+3.0%
	海外	36,544	45,920	9,375	+25.7%
	その他・共通	3,594	4,264	670	+18.6%
	合計	212,320	224,547	12,226	+5.8%
営業利益	物流ネットワーク	5,119	5,517	398	+7.8%
	地域保管	6,956	7,925	969	+13.9%
	海外	1,410	2,077	667	+47.4%
	その他・共通	▲ 401	▲ 895	▲ 493	-
	合計	13,084	14,626	1,542	+11.8%

5. 参考資料

[財務諸表分析]

		前期末	当期末
総資産	百万円	181,136	194,504
負債	百万円	95,258	102,642
うち、有利子負債	百万円	55,535	62,253
うち、有利子負債（リース債務除く）	百万円	40,334	48,300
純資産	百万円	85,877	91,862
D/E比率	倍	0.6	0.7
D/E比率（リース債務除く）	倍	0.5	0.5
自己資本比率	%	47.2%	47.0%
売上高	百万円	212,320	224,547
当期純利益	百万円	8,688	9,107
自己資本利益率（ROE）	%	10.2%	10.0%
総資産利益率（ROA）	%	4.8%	4.7%
総資産回転率	倍	1.2	1.2

注1：D/E比率の算出方法：有利子負債÷純資産（少数株主持分を除く）

5. 参考資料

[設備投資の状況]

〈設備投資等〉

(単位：百万円)

前期	当期	前期比	次期計画	当期比
19,919	12,857	▲7,062	24,120	+11,263

〈減価償却費〉

(単位：百万円)

前期	当期	前期比	次期計画	当期比
10,473	10,817	+344	11,253	+436

〈主な設備投資〉

(単位：百万円)

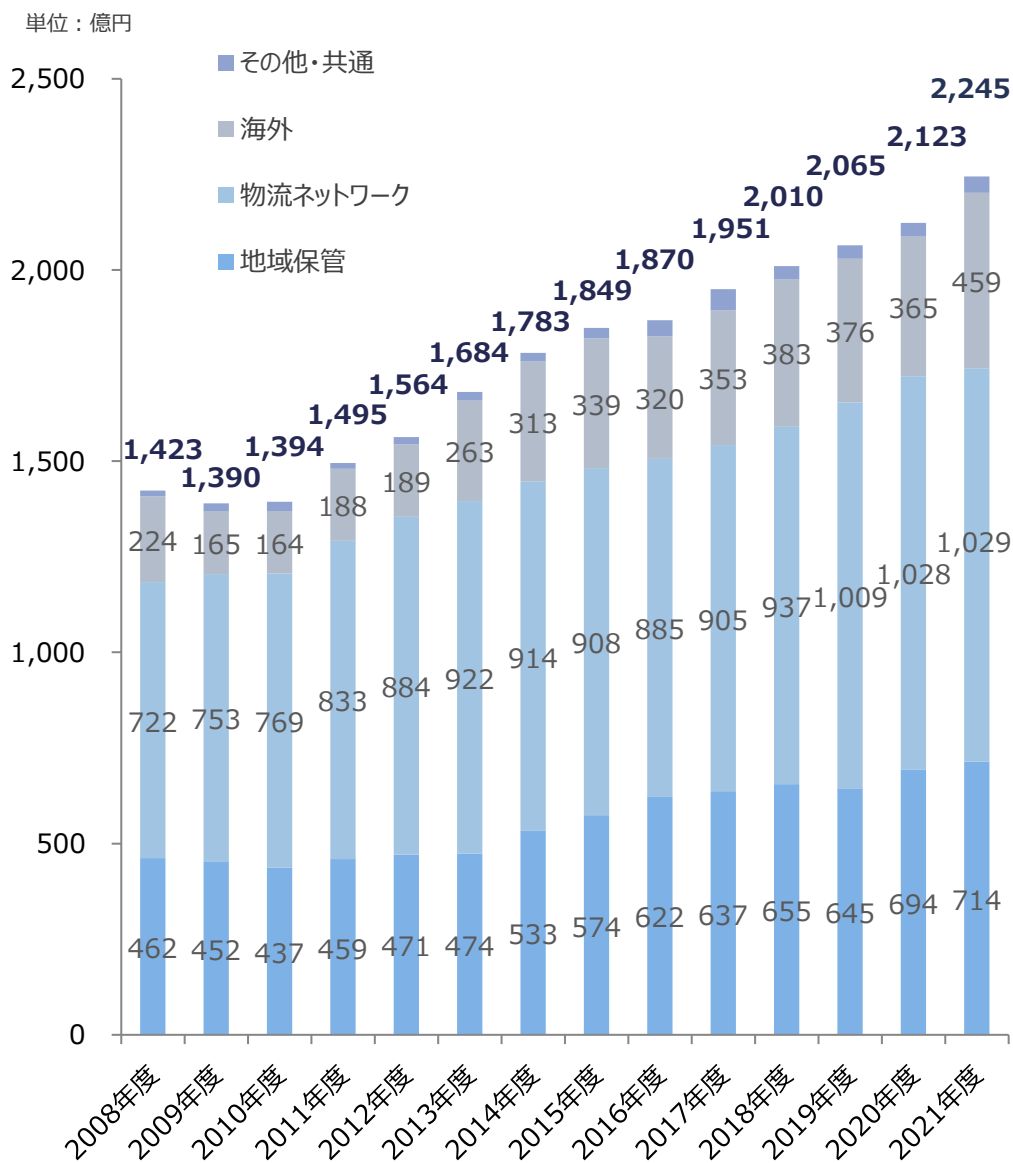
完了年月	会社名 事業所名	所在地	設備の内容	設備投資 総額	当期計上額	完成後の 増加能力
					(既計上額)	
2021年 12月	Entrepots Godfroy S.A.S.	フランス ローヌ県	物流センターの 増設	980	644 (980)	設備能力 16,000 t
2022年 1月	Eurofrigo B.V.	オランダ ロッテルダム市	物流センターの 増設	2,428	1,428 (2,428)	設備能力 23,000 t
2022年 3月	Entrepots Godfroy S.A.S.	フランス セーヌ・マリティーム県	物流センターの 増設	795	630 (795)	設備能力 8,000 t

注：上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

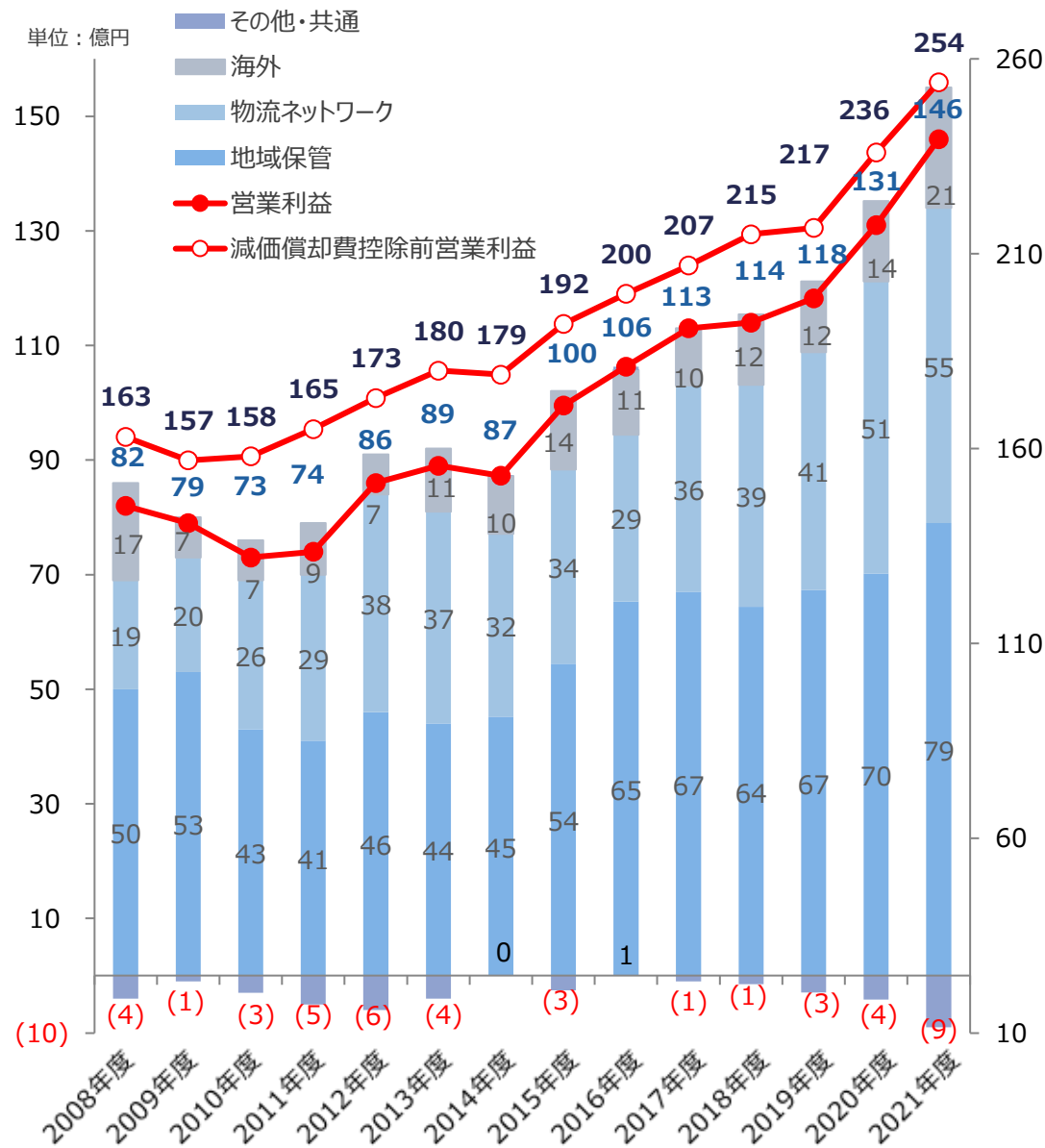
5. 参考資料

[売上高・営業利益推移]

売上高推移



営業利益推移



この説明資料に記載されている当グループの現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。

将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られた当グループ経営者の判断に基づいております。

実際の業績は、経済情勢および業界環境、為替レート変動、品質保証体制確立の実現性、新サービスの実現性、成長戦略とローコスト構造の実現性、当グループと他社のアライアンス効果の実現性、偶発事象の結果、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響など、リスクや不確実な要素を含んでおりますので、業績見通しのみで全面的に依拠して判断されることは、お控えいただきますようお願いいたします。

【お問合せ先】

株式会社ニチレイロジグループ本社 経営企画部

Tel 03-6378-7171 Fax 03-6695-9913

株式会社ニチレイ 総務広報部 広報グループ

Tel 03-3248-2235 Fax 03-3248-2233

株式会社ニチレイロジグループ本社 ホームページ

<https://www.nichirei-logi.co.jp/index.html>

